

2021 年度事業報告

2021 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止（以降感染症という）に伴い、事業計画の時点で遂行が可能な事業の取組を行いました。また緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が政府から発出された時点で、安全性を鑑みその期間の事業を中止いたしました。

I 助成事業

(1) 演劇関係者への助成金交付

演劇興行及び演劇製作に寄与した団体または個人の功績を讃へ表彰する助成金交付事業は、内外の推薦を募り外部委員を含めた選考委員会が審査選考し、候補者を決定。常務理事に報告、審査の上会長に答申し、2021 年度は下記の 3 名が承認されました。表彰式はまん延防止等重点処置発令中で、理事会がオンラインとなったため 3 月 11 日（金）、歌舞伎座ギャラリーにて会長と在京の常務理事、理事、監事出席の下各表彰者に賞状と助成金を贈呈しました。

(受賞者と授賞理由)

ありむら じゆん
有村 淳 殿（宝塚歌劇団、理事 衣装デザイナー）

1991 年宝塚歌劇団に入団以来衣裳製作の分野で様々な研鑽を重ね「エリザベート」をはじめとする多くの公演で成果を上げてこられました。その後宝塚歌劇団作品以外にも活躍の場を広げられ、2014 年には「ロックオペラ モーツァルト」「春雷」で第 21 回読売演劇大賞優秀スタッフ賞を受賞されました。以来多くの作品に携わられ、その成果は大きく評価されておられます。これまでの功績を高く評価し今後より一層の活躍を願っての受賞。

ききもりひでき
笹森英樹 殿（レコーディングエンジニア）

レコーディングエンジニアとしてジャンルを問わず多才な技術を磨いてこられました。2013 年からは新作歌舞伎など新しい分野にも携わり今まで築かれてきた技術を惜しみなく発揮されると共に俳優やスタッフからの信頼も厚く新しい分野にも積極的に取り組みながら熱意をもって活躍されておられます。これまでの功績を高く評価し今後より一層の活躍を願っての受賞。

竹内志朗 殿 (舞台装置デザイナー 手書き文字職人)

半世紀以上に亘り舞台装置家として多くの舞台に携われ数多くの舞台装置のデザインを貴重な財産として残されました。更にテレビタイトルのデザイナーとして、第一人者として活躍されておられます。後進の指導育成にも寄与されるなど出演俳優やスタッフからの信頼も厚く、今も変わらぬ熱意をもって活躍されておられます。これまでの功績を高く評価し今後より一層の活躍を願っての受賞。

(2) 海外研修への助成

1989年に発足しました海外研修は、研修者が欧米の演劇と文化に直接肌に触れることで大きな実績となる。との目的で2019年度までで計29回実施いたしました。研修参加者は延べ551名となりました。2021年度は当初の事業計画にて今期の事業中止を決めておりました。

(3) 新人脚本家養成のための助成

2021年度は緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が当該地域に発出された時は休講とする条件で講座の開講を行いました。結果といたしまして休講数が4月から9月でマスターコース、中級コース共に5回、10月から3月でマスターコース2回、中級コース4回となりました。今期開講出来たのがマスターコース5回、中級コースで3回となりました。2021年度の総会で今期の受講料を返金する決議頂き、未受講数の受講料の返金を行いました。

尚、2021年度の受講者数

マスターコース 8名 中級コース 12名 計20名

第八回脚本募集

2019年度に募集、2020年度に審査、2021年度に表彰の計画をしておりました脚本募集事業ですが、1年遅れの2021年度に審査を終了いたしました下記6名の入選者を決定いたしました。尚、表彰式は本日の理事会終了後に執り行う予定でございます。

最優秀作品 該当者なし

優秀作品	時代劇部門	しのぎまたかお 篠崎隆雄氏	ふかがわえいたいもどりぼし 「深川永代戻り橋」
佳作	歌舞伎部門	やまぎあかえ 山崎赤絵氏	やみよにしのぶおんがいちぞく 「闇夜 忍 遠賀一族」
佳作	ミュージカル部門	おおもりわこ 大森匂子氏	ふたり こうじよ 「二人の孝女」
佳作	現代劇部門	つげとくい 柘植徳井氏	おやじ 「親父」
佳作	現代劇部門	たかなぎいくこ 高柳育子氏	さんがいがくや じよゆう 「三階楽屋の女優たち」
佳作	時代劇部門	あさみ じゆん 浅見 純氏	かさうりひめ 「笠売姫」

II 普及事業

(1) 半額鑑賞会

東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、公益財団法人都民劇場、大阪府、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人名古屋市文化振興事業団と本協会で開催している半額鑑賞会は低価格で質の高い舞台芸術を鑑賞する機会を提供する事業として都民、府民、市民から幅広く支持され、演劇人口の裾野を広げております。

2021年度は緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置発出のため公演中止が発生しましたが、夏以降ガイドラインの改定や収容人数等の規制が見直され、少しずつではありますが公演回数が増加してきました。各劇場は、さらなる感染対策を行い、ガイドラインに則り安心安全の運営を行っておりますが、出演者の感染が確認され、急遽の公演中止になる事例が発生しております。また公演回数の増加に伴い半額鑑賞会のウエイトが増える傾向となりました。

協会といたしましても各劇場と確認をしながら無理のないよう順次事業を取り組みました。出演者、スタッフ等の感染で公演中止等が発生しましたが、2021年度は東京地区4回 大阪地区6回 名古屋地区3回 福岡地区10回 合計23回の事業を実施することができました。

東京地区	4回	22,127人	147,571,000円	資料 ① 9P
大阪地区	6回	40,193人	207,210,350円	
名古屋地区	3回	2,186人	13,926,750円	
福岡地区	10回	11,823人	88,090,499円	
合計	23回	76,329人	456,798,599円	

(税込、観劇料金×販売枚数、公演中止による減額は含まず)

また、2022年4月時点、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、公益財団法人都民劇場、大阪府、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人名古屋市文化振興事業団と本協会とは、普及事業に関わる協定書に調印いたしました。また、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人名古屋市文化振興事業団と本協会とは、普及事業に関わる取り扱い手数料について覚書に調印いたしました。

(2) 学生対象の演劇教室

加盟劇場の観劇と組み合わせ、学生を対象とした演劇教室の開催。若年層への演劇の普及を目的とする本事業につきまして2021年度は当初の事業計画にて今期の事業中止を決めておりました。

Ⅲ. 会報の発行

協会の事業及び情報の周知を図るため、60号、61号を発行いたしました。

会報は会員、賛助会員、所轄官庁、関係団体、演劇評論家、演劇記者、業界紙、舞台関係者等々に配布いたしました。

Ⅳ 調査事業

ロンドン劇場協会が作成した加盟52劇場で実施された一年を通じたボックスオフィスデータの調査結果とロンドン劇場協会提携会員の17の準会員劇場の主要事項を内容としている[Box Office Data Report 2018]の翻訳、編集。

ぴあ株式会社が事業委託を受けて作成する「ライブエンターテイメント市場調査報告書」の調査、編集。

2021年度は2020年度本事業を取りやめた分を取り戻すため、2年分の調査事業を行いました。

ぴあ株式会社との「ライブエンターテイメント市場調査報告書」は資料を分断することなく進めることが出来ましたが、ロンドン劇場協会の「Box Office Data Report」につきましては、2018年版は発行することが出来ましたが、2019年版につきましてはロンドン劇場協会がコロナの影響で発行出来なく、事業展開を行うことが出来ませんでした。今後情報を取りながら、資料の分断をすることなく事業展開をいたします。

報告事項

① 文化庁アートキャラバン事業 資料 ② 10P

令和2年度補正予算で文化庁の事業であります“大規模かつ質の高い文化芸術活動を核としたアートキャラバン事業”につきまして、2021年2月5日の定時理事会でご承認いただき、令和3年(2021年)5月31日補助事業者として採択を受けました。補助金総額10億円。全国20地域、18団体31公演、324st、33,826名の公演と最新技術(8k+ドルビーアトモス)による収録・アーカイブ(収録・アーカイブ7作品)の事業を行いました。事業全体は2022年1月末をもってすべて終了しており、補助金の支払関係は2月25日にて完了。3月28日付けで文化庁長官宛てに必要書類と共に、実績報告書の提出を完了いたしました。今回の事業におきまして迫本監事、安藤監事を始め多くの方のお力添えを頂きました事に深く感謝申し上げます。

② 一般社団法人 日本音楽著作権協会(JASRAC)との音楽著作権料に関する交渉を継続して行っております。

昨年11月にJASRAC側から現行の音楽著作権利用料規定を2024年4月に改

訂を行うとの通達がありました。2018年から演興協加盟劇場は利用規定に対して逡減処置を受けております。今回の改定案では逡減処置撤廃の方針が示されており、演興協といたしましては昨年12月20日、安孫子会長名で逡減処置の延長の要望書をJASRACに提出いたしました。今後少しでも逡減処置が認められるようJASRACとの協議を続けて参ります。協議のメンバーは東宝松田和彦氏、明治座高木潤氏、新歌舞伎座梅田氏、演興協吉浦の4名でございます。

- ③ 例年会員に発行しております協会加盟劇場で使用できますご観劇引換券ですが2022年度は4月の会費納入確認後に発行いたしております。
利用確認等加盟劇場のご協力をお願いいたします。
- ④ 協会加盟劇場の支配人を委員とする委員会は、協会の事業活動方針を審議するため、例年2月と6月に開催しておりましたが、感染予防のため、2020年5月よりオンラインでの毎月定例の開催といたしました。2021年度におきましても毎月1回定例の委員会としてオンラインで開催し、各劇場が抱える問題解決に向けての取り組みを行っております。
- ⑤ 2018年より参画しておりますアート&ライブシティ構想委員会ですが2021年は11月に感染対策を行い日比谷、銀座、築地とその周辺の街の劇場、映画館、ギャラリーの魅力を発信するイベントを行いました。尚アート&ライブシティ構想委員会の会長は日本演劇興行協会会長とされており現在は安孫子会長が同委員会の会長を務めております。

以上

2021年度事業報告の附属明細書

定款第38条第1項第2号に定める事業報告の附属明細書につきましては、事業報告の内容を補足する重要な事項がないため本年度は作成しておりません。

以上